

乙1 テーブル—Assembly 2017—

Judge : 渡辺 (明治4) 森山 (青学4)

テーブルメンバー

中村圭 (立教2) 湯浅 (明学2) 小野 (法市2) 石井 (獨協2)
北風 (法市2) 佐々木 (明学3) 目黒 (立教2)

テーブルの流れ (文責: 渡辺健司)

アッセンブリー—東日本予選お疲れ様でした。僕からは全体の流れを紹介したいと思います。

あくまで僕が理解できる範囲であったり、僕の解釈や予想を書いているので違う部分が多々あると思いますが温かい目で見ただけだと幸いです。

p.s

総評の仕上げがかなり遅くなってしまい申し訳ありませんでした。

時間がかかったからといって特にクオリティーは高くないむしろ時間がたってしまったことで記憶に残ってない部分が多々ありクオリティーが低いものになっていると思いますがお許しください。

～Narrowing、OP決め～

中村 (立教2) のNarrowingから始まり、自身がそのままOPになる。

Planの内容はよくあるモデルオピニオンシートの脳死者の臓器を強制的に臓器移植に使用することで臓器移植を必要としている人達を救うというものであった。

OPの主張としては、現状を継続し脳死者の延命治療を続ける場合を脳死者 (以下B/D) を救うと定義するのであれば、臓器移植を必要としている人 (以下TG) を犠牲にしB/Dを救うよりもB/Dを犠牲にしTGを救う方が救った人たちが行う社会的貢献度が大きいことによって日本国民にとってよりよい社会を作れるため法案を可決するべきであるという主張であった。以上のことが確認されASQへ移行する

～ASQ～

ASQでは主に今回のTGの精神的苦痛とB/Dが持つと想定される精神的苦痛の差別化と社会的貢献は何を尺度に判断されるのかを石井（獨協2）、小野（法政2）のOPへの質問により確認され、結果小野（法政2）の質問により社会的貢献度は日本政府に税を払っているか否かで判断されることがわかりNFCへ移行した。

～NFC～

1、湯浅（明学2）の今回の中村（立教2）の想定するコンパリへの懸念、2、小野（法政2）のB/Dも同様に死を恐怖していることによるNFCの否定、3、北風（法政2）のsocial DIT(D=需要、I=関心、T=トレンド)に反したトピックでJ/Gが触れるべき内容でなく議論すべきでないという主張という3つの意見が出された。

1、湯浅（明学2）のアイデア

これは主にOPが自身のコンパリ観を説明した後に湯浅に対しコンパリで再度扱おうという提案しそれに対し湯浅が納得したことで一旦終了しコンパリまで論点が持ち越された。

2、小野（法政2）のアイデア

これはOPがTGの死への恐怖とB/Dの死への恐怖の差異を確認し、それをテーブル内の共通認識にしたいという小野の主張をテーブルメンバーが納得したことで終了した。

3、北風（法政2）のアイデア

このアイデアはDIの日本社会内での関心度とTの世界的なトレンドの2つに分けて話された。

DIに関しては関心度を上げるためにAPAで教育を行うプランを加えようというOPからの提案によって解決した。

Tに関しては北風（法政2）によるとTに従わないとWHOが日本をサポートしてくれなくなる可能性に対するリスク懸念していて、北風（法政2）視点でTGの精神的苦痛よりも被害が大きいことや他の策がないことからTGを救うよりも優先されるべきという主張があった。それに対し中村（立教2）は自身の母校の先輩である北田（立教4）が大統領選挙時に話題になった現アメリカ合衆国大統領のドナルド・トランプを存じていなかったことを例にあげ、日本国民の中には北田（立教4）のようなファンキーボーイが1人以上いるため全ての人がWHOの存在やその恩恵を理解しているとは限らないためNFCで話すべきではない。そして優先度を決めたいのであればそのロジックをコンパリで証明するべきであるという主張からこの話はコンパリで話そうという提案をしそれを北風（法政2）が認めたことで終了した。

またどのようにコンパリで話すのかという論点が湯浅（明学2）から質問という形で出されたが、それに対してもOPからの提案によってコンパリで話すことになった。

その後中村（立教2）が休憩をとろうと提案するものの否決され議論が続行される。

~Direction、Mandate~

特に確認作業や主張はなかった。

~SOL~

practicabilityに関して1、湯浅（明学2）のkeep tryにおいて公平性を担保しなければならぬという主張と2、北風（法政2）によるB/Dに対し被害を強制することは医療の目的から反しているこの法を可決すべきでないという2つの主張が出てきた。

1、湯浅（明学2）の主張に関して

OPの、湯浅（明学2）の主張があくまで主観的なことやNarrowingで定めたことに反していて話す必要性が現時点でないアイデアなのでコンパリが終わってから話そうという提案によってコンパリ後に流された。

2、北風（法政2）の主張に関して

OPのB/Dは死者であるという論拠を使ったダウトやカンファメーションによって最終目的がMandateを変えるというものになったが結局その提案が否決され終わった。

ADを確認したところで中村（立教2）から再度休憩の提案があり今度は可決された。

~DA~

DAプレゼンターには小野（法政2）北風（法政2）湯浅（明学2）が立候補したが最終的に小野（法政2）のB/Dが持つ死への恐怖からくる精神的苦痛が選ばれた。

~comparison~

中村（立教2）のOP決めるときに説明した主張が議論された。具体的にはJ/Gが得るお金こそが国力といえるため税金を払える人を救うべきなので病気の回復の可能性からADTGを救うべきというロジックについて検証した。

これに対しB/Dが税金を払えない理由やB/Dの回復の可能性の確認から比べ方の公平性などについて議論をした後にテーブルメンバーが納得し証明された。

その後小野がDA>ADを証明しようとするも検証段階に行く前に時間が来てしまい。結果現状の議論ではADの優位性が確認できるためT/Pとなった。

以上

順位と選定理由（文責：森山）

1 位中村圭（立教2）

OPとしてAD立論をし、Comparisonまで話を進めた点を評価しました。

テーブルになくってはならない、圧倒的存在であったことからこの順位としました。他者のInteを組み、話を一つ一つ終わらせるQ,C,Sの技術は、乙一として十分なものでした。

テーブルの全体を見て、丁寧に推進していく技術が評価されました。

目指していたものとは違ったかもしれませんが、次の立教大学を背負う代としてこれからも頑張っていってください。

2 位湯浅（明学2）

DApresenterとしてDAを証明し、他者のArgumentやComparisonでのC、Doubtを評価しこの順位としました。一位との差は、他者のIdeaを流す、切る、Burdenを振るといった所で開いていきました。トリーターが居た場合にどう立ち回るかをPreparationで積み重ねていくことが大切だと思います。非常に綺麗なチャートで、丁寧にまとめるCは武器になると感じました。介入の視点も良く、丁寧な介入を魅力に思いました。これからも頑張っていってください。

3 位小野（法市2）

適宜QやCでの介入を評価しこの順位としました。残念な点としては、DoubtやArgumentなどの自身のアイデアを出していなかった事です。2位との差が開いたのはその理由です。トリーターが居た場合の立ち回りを各テーブルで考えるとより小野さんの良さが伸びていくのではないかと思います。まわりの人に惑わされずに自分のペースを作って介入しているところに魅力を感じました。これからの自大学を背負っていく代として、頑張っていってください。

4 位北風（法市2）

NFCのDITのアーギュメント、PRACAのPPSのアーギュメントを評価しこの順位となりました。エビデンスなどを用意していたために、第三者へのイメージを抱かせやすかったと感じた。アーギュメントが結局流されたり、スパイクプランとゴールを変え、受け入れられずに惜しいと感じた。Neces付けや、SpikeplanでのMerit提示などのプレパレーションによってより良いアーギュメントになりえると感じた。いかに相手に伝えるか、端的に言

い換えをするかなどを意識するとよいとも思います。これからも頑張ってください。

5 位石井（獨協2）

介入が限定的であったためにこの順位としました。Qでの前半の介入の勢いで、どのエリアも話に食らいついていけば順位は変わっていたと思います。4位との差は僅差です。ダウトを数個出していて、内容も論点になりえたものだと感じました。その提示の仕方をこれからのプレパで磨いていってほしいと思います。介入をためらわずに、プレゼンをしていくことでより伸びていくと感じました。これからも頑張ってください。

6 位佐々木（明学3）目黒（立教2）

介入が見られずにこの順位としました。それぞれ、様々な想いを抱えたアッセンであったと思います。しゃべれない、しゃべらないことは私も多く経験しました。

しかし、競技である限り順位はつきます。これから、1年生が入るのでEducationだったり、自大学のプレパやジョイント大会などでのディスカッションの楽しみを見つけていってほしいなと思いました。頑張ってください！

ジャッジなど全体に対するメッセージ

お疲れ様でした。良くも悪くも中村（立教2）の独壇場って印象でしたし結果もそんな感じでした。次の代を担う2年生が中心のテーブルで活気があり見ていてとても楽しかったです。今後はディスカッションをあまりやっていない人がテーブルにいたとしても3時間寝させないような議論ができるように皆さんが成長していってくれることを期待しています。

3年生は後輩の育成を、2年生は来年へ向けて目標を定めてスキルアップをこれからもがんばってください！！（渡辺明治4）

選定理由に疑問があれば、どんなことでも森山（青学4）まで連絡をください。現役はいろいろな想いがある中での大会だったんじゃないかなと思います。これから3年生は引退まで、自大学でも他大学でもEducationだったり、来年度のJudgeで還元してあげてください。2年生はこれからが自身の代なので、全力で楽しみつつ頑張っていってください。

選定理由やコメントなど上から目線になってしまい申し訳ありません。

Assembly 現役、基準局の方々も含め、お疲れ様でした。（森山青学4）